

松村 美奈 (Mina MATSUMURA)

学位：博士（日本文化）

略歴：愛知大学大学院文学研究科博士前期課程修了

愛知大学大学院文学研究科博士後期課程修了

専門分野：日本近世文学、国語教育

研究課題：1. 近世文学における裁判説話の変遷について

2. 17 世紀から 18 世紀の「学びの文化」について

3. 中学・高等学校における古典文学教育について

【著書】

- ・『仮名草子集成 第 66 巻』（共著、東京堂出版、2021 年 12 月）
- ・『全訳男色大鑑（歌舞伎若衆編）』（共著、文学通信、2019 年 10 月）
- ・『全訳男色大鑑（武士編）』（共著、文学通信、2018 年 12 月）
- ・『気楽に江戸奇談！RE:STORY 井原西鶴』（共著、笠間書院、2018 年 1 月）
- ・『仮名草子集成 第 58 巻』（共著、東京堂出版、2017 年 11 月）
- ・『浮世草子大事典』（共著、笠間書院、2017 年 10 月）
- ・『仮名草子集成 第 53 巻』（共著、東京堂出版、2015 年 3 月）
- ・『江戸のダークサイド』（共著、ぺりかん社、2011 年 3 月）

【論文】

- ・高等学校「古典探究」における近世文学教材の動向－教材としての「往来物」の可能性－（『愛知文教大学教育研究』第 14 号、2024 年 3 月）
- ・「仮名草子『浮雲物語』についての一考察 —「浮雲御前」をめぐる信長・勝家—」（『愛知文教大学論叢』第 25 巻、2023 年 2 月）
- ・『日本名女物語』について — 編集意図に関する一考察 —（『解釈』第 68 巻 9・10 月号、2022 年 10 月）
- ・「ICT を活用した古典指導の可能性『伊曾保物語』の教材化を一例として」（愛知文教大学教職課程センター発行『愛知文教大学教育研究』第 12 号、2022 年 2 月）
- ・「(研究ノート)『日本永代蔵』試論－巻二の一「世界の借屋大将」にみる女子教育」（愛知大学一般教育研究室編集・発行『愛知大学一般教育論集』第 59 号、2021 年 3 月）
- ・「(共著) 高等学校における古典指導－新しい教材を用いての取組み－」（愛知大学教職課程研究年報編集委員会発行『愛知大学教職課程研究年報』第 10 号、2021 年 2 月）
- ・「(研究ノート)『本朝桜陰比事』考－後続作との関係を中心に－」（愛知大学一般教育研究室編集・発行『愛知大学一般教育論集』第 58 号、2020 年 3 月）

- ・「(実践報告) 詩歌に親しむ活動について ―「主体的学び」としての短歌指導 ―」(愛知大学教職課程研究年報編集委員会発行『愛知大学教職課程研究年報』第9号、2020年2月)
- ・『日本永代蔵』「三匁五分曙のかね」試論 ―『破産』との比較から ―」(愛知大学国文学会編集・発行『愛大國文學』第58号、2019年1月)
- ・「(実践研究) 古典作品を「自分の言葉で書き換える」言語活動～国語総合(古典)『伊勢物語 ―「筒井筒」』・『寓話 ―「塞翁が馬」』の授業実践より」(愛知大学教職課程研究年報編集委員会発行『愛知大学教職課程研究年報』第7号、2018年3月)
- ・「国語科授業を「デザイン」する力の必要性 ― 学力観の転換にむけて ―」(愛知大学教職課程研究年報編集委員会発行『愛知大学教職課程研究年報』第6号、2017年3月)
- ・「小酒井不木と『棠陰比事』」(愛知大学国文学会編集・発行『愛大國文學』第56号、2017年1月)
- ・「(研究ノート)「伝統的な言語文化」に親しむ授業のあり方について ― 小・中学校国語科を中心に ―」(愛知大学教職課程研究年報編集委員会発行『愛知大学教職課程研究年報』第5号、2016年2月)
- ・「『和漢乗合船』創作過程についての一考察」(愛知大学一般教育研究室編集・発行『愛知大学一般教育論集』第47号、2014年9月)
- ・「(実践研究) 国語科教科書における言語活動に関する一考察 ―『国語総合』の古文教材を中心に ―」(愛知大学教職課程研究年報編集委員会発行『愛知大学教職課程研究年報』第3号、2014年3月)

【学会発表】

- ・『日本名女物語』について ― 女訓物としての位置づけ ―」第54回解釈学会全国大会研究発表(2022年8月20日 於：関東学院大学金沢キャンパス zoom オンライン発表)

【学界・研究動向報告等】

- ・「令和2年度 表現学関連分野の研究動向 国語科教育」(表現学会編集・発行『表現研究』第113号、2021年4月)
- ・「平成29年 国語国文学界の動向 近世散文 開かれた日本文学研究への課題」(全国大学国語国文学会編集・発行『文学・語学』第226号、2019年10月)

【公開講座・出張授業等・その他】

- ・愛知県立高等学校評議委員(2023年4月～継続中)
- ・解釈学会委員(2022年11月～継続中)
- ・東海近世文学会 幹事(2020年6月～継続中)
- ・愛知文教大学出張授業「江戸時代の出版文化に触れよう！もう一つの『桃太郎』を中心に」(2023年10月19日実施：愛知県立瀬戸西高等学校2年生進路説明会)

- ・名古屋市港生涯学習センター講座〈なごや学〉名古屋と日本近代文学「日本探偵小説の巨星～小酒井不木～」(2024年2月27日実施：港生涯学習センター 視聴覚室)
- ・日本近世文学会「和本リテラシー」出前授業(2024年3月4日実施：愛知県立名古屋南高等学校)
- ・愛知文教大学公開講座「戦国武将とキリシタン音楽 ― 豊臣秀吉の聴いた西洋の音 ―」(2023年1月9日 於：愛知芸術文化センター中リハーサル室)
- ・愛知文教大学「信長学」サテライト講座「信長を取り巻く女性達 ― 近世の文学作品を通して」(2022年11月26日 zoomオンラインにて実施)
- ・愛知文教大学学び合う学び研究所第8回セミナー講座「現代につながる江戸時代の教育事情」(2022年11月12日)
- ・出張講座(模擬授業)「江戸時代の絵本を読もう ― 『桃太郎』から『ばけ物よめ入り』まで」(於：愛知県立瀬戸西高等学校2年生進路説明会 2022年10月20日)
- ・愛知文教大学「信長学」サテライト講座「近世の文学・芸能作品に描かれる織田信長―作られた信長像」(zoomオンラインにて実施、2021年11月13日)
- ・教員免許状更新講習における講座担当「江戸の庶民教育」(2021年8月19日)

令和 6（2024）年度ティーチングポートフォリオ

氏 名	松村美奈	職位／役職	教授／教務部長
-----	------	-------	---------

1. 教育の理念

愛知文教大学の建学精神は、「質実有為で宗教的情操を身につけた真人の育成」であり、特に現代社会において一生自立的に生き抜く強い心と社会力を具えた人材を育成することを目的としている。自らの教育において、このような人材を多く輩出できるよう寄与したいと考えている。

私は日本文化専攻の教員として、「日本文化」「国語教育」関連授業を受け持っている。「日本文化」関連科目については、テキスト解説と歴史的背景等様々な問題を紐付けながら指導することで、事柄を重層的に考え、幅広い視野を身に付けることを目指している。また、「国語教育」関係の科目では、理論と実践を組み合わせながら、知識に片寄ることのないよう、指導力を養うよう心がけている。

2. 教育活動の内容

【2023 年度担当授業】

（春期）

- ・文章表現法 A（スタディスキル）
- ・江戸の絵本を読む
- ・日本古典文学演習 C
- ・アカデミアゼミ A
- ・アカデミアゼミ C
- ・日本古典文学史
- ・日本語概説
- ・国語科教育法Ⅲ
- ・ことばと人文学（オムニバス）

（秋期）

- ・文章表現法 B
- ・信長学（オムニバス）
- ・日本古典文学演習 D
- ・アカデミアゼミ B
- ・アカデミアゼミ D
- ・日本語史
- ・留学生のための地域文化探求 B
- ・国語科教育法Ⅳ
- ・ことばと多文化教育（オムニバス）

【2024 年度担当授業】

（春期）

- ・（再履修）文章表現法 A（スタディスキル）
- ・江戸の絵本を読む
- ・アカデミアゼミ A
- ・アカデミアゼミ C
- ・日本古典文学史
- ・日本語概説
- ・国語科教育法Ⅲ
- ・ことばと人文学（オムニバス）

（秋期）

- ・（再履修）文章表現法 B
- ・信長学（オムニバス）
- ・アカデミアゼミ B
- ・アカデミアゼミ D
- ・日本語史
- ・留学生のための地域文化探求 B
- ・国語科教育法Ⅳ
- ・ことばと多文化教育（オムニバス）

【2023 年度公開講座・出張授業等】

- ・愛知文教大学出張授業「江戸時代の出版文化に触れよう！もう一つの『桃太郎』を中心に」
(2023 年 10 月 19 日実施：愛知県立瀬戸西高等学校 2 年生進路説明会)
- ・名古屋市港生涯学習センター講座〈なごや学〉名古屋と日本近代文学「日本探偵小説の巨星～小酒井不木～」(2024 年 2 月 27 日実施：港生涯学習センター 視聴覚室)
- ・日本近世文学会「和本リテラシー」出前授業 (2024 年 3 月 4 日実施：愛知県立名古屋南高等学校)

3. 教育の方法

「アカデミアゼミ」「日本古典文学演習」といった演習形式の授業については、発表＋質疑応答の組み合わせを踏襲し、ディスカッション形式で授業を進めている。発表者には自分の考えをまとめ、相手にわかりやすく伝えることを課している。聞く側にも、相手の意見について、常に自分なりの考えを持ち、相手に伝えられるように指導している。

「文章表現法」では、初年次教育の一環として文章の基礎から論文作成の基本までを身に付けられるよう指導している。特に学生の仕上げた文章に対しては一人一人にコメントを付けたり、丁寧に説明を加えることで、文章を書くことへの抵抗を無くすよう工夫をしている。

上記以外の科目では、基本的には講義形式で行っているが、講義中に必ずグループワーク・ペアワークを取り入れて興味を促すなど工夫を凝らすよう心がけている。特に古典文学に関わる内容においては現代社会と繋がりを持たせながら問題を考察させている。適宜 ICT を活用し、映像を取り入れるなどの方法を用いて自ら探求し、考えをまとめられるよう授業を構成している。

「国語科教育法」は、教職課程科目の 1 つであり、教育実習前の 3 年次生に向けての授業となるため、国語科指導として重要な学習指導要領の理解と指導案作成及び春期・秋期を通しての模擬授業を行い、授業者としての実践力が身に付けられるよう心がけている。

全ての演習授業・講義授業において、毎時提示した課題について必ず自分の考えを 200 字～300 字程度の文章にまとめ、提出することを課している。これは、毎時まとめる訓練を行うことで文章を構成する能力の育成に繋がると考えるからである。

4. 教育活動の成果・評価と改善方策

2023 年度授業評価アンケートにおいて、「授業満足度」の項目では、どの科目においても、5 段階評価において 4.0 以上の評価を得ることができ、概ね高評価であったと思われる。「初めはこの科目に興味はなかったが、授業が進むごとに興味が湧いてきた」「新しい学びがあった」など肯定的な感想コメントもあった。その一方で、「授業に対する事前事後学修」については平均値を下回り、学生は事前事後学修をほとんど行っていないことも判明した。また、「PowerPoint 画面が見づらい」などの指摘もあり、今後は、より一層授業内容に工夫を凝らしつつ、予習復習に取り組めるように改善を心がけたい。特に改善方策として、FD 研修の一環である授業公開時には、できるだけ多くの授業を参観し、参考になる授業方法を取り入れていきたいと考えている。

5. 今後の目標

学生達が、幅広い文化理解と教養を獲得するとともに「学ぶことの楽しさ」に気づくことで、主体性を持って意欲的に学べるよう、常に興味・関心の持てる授業方法の開発を行っていきたい。